

# 県東地域の医療体制の課題 について

## 県東地域の医療体制の課題

医療機能ごとの課題	
高度急性期 急性期	<ul style="list-style-type: none"><li>・将来も急性期医療の需要が見込まれることから、今後も急性期病床が必要とされる。</li><li>・中核病院が中心的に担っているが、過重負担となっているため、救急搬送の適正利用の普及や救急医療電話相談等の利用により、救急搬送される患者数の増加を抑えられることが求められる。</li></ul>
回復期	<ul style="list-style-type: none"><li>・見込まれる将来の医療需要を考慮すると、患者を受け入れられる医療機関数や病床数が少ない。</li><li>・県東地域の全病床数に占める回復期の割合は、他の医療圏に比べ少ない。</li><li>・他の医療圏への患者流出が大きい。</li></ul>
慢性期	<ul style="list-style-type: none"><li>・在宅医療の将来の医療需要が増加し、2035年に需要が最大となる見込みである。増加する需要に対応できるよう、在宅医療の体制の整備が求められる。</li><li>・訪問看護ステーションの数が少なく、担える医療機関の増加が望まれる。</li></ul>

## 医療従事者の確保

- ・医師偏在指標は全国的にみても低く、医師の確保は必要である。
- ・医療施設に従事する医師、歯科医師、薬剤師、看護師の数は、栃木県平均を下回っており、これらの従事者の確保も望まれる。
- ・回復期患者への対応を考慮すると、理学療法士や介護福祉士も必要とされている。